

白藍塾オリジナル

2021入試小論文分析&解答のヒント

2021年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・看護医療学部

今回の課題文は、わかりやすい。目の見える人と見えない人との関係について述べた文章だ。筆者は、見える人が見えない人をサポートする「福祉的な態度」の意義を述べた上で、見える人がそれに縛られることで、かえって見えない人との関係がうまくいかなくなるとする。それに対し、「情報」よりも「意味」を重視し、「見える／見えない」の差異を面白がるような態度こそが、両者の関係をもっと対等で人間的なものにする、と論じている。

今回も2つの設問があるが、どちらも説明問題。

問題1では、「福祉的な態度」について、「意味」「情報」という2つの言葉を使って説明することが求められている。

筆者は、福祉的態度を「情報」ベースの関わりと呼び、それと対比して「意味」ベースの関わり的重要性を説いているが、それに準じて説明するとよい。まず「福祉的な態度」が障害者の「情報」へのアクセスをサポートするものであることを示した上で、それだとどうしても「意味」のレベルでの関わりが欠けてしまうという問題があることを説明するとよいだろう。

看護医療学部の問題2は、例年、説明問題とも小論文問題ともつかない出題が多いが、今回は明白に説明問題だ。筆者が「見える人の世界と見えない人の世界の違い」を前提に、(見える人と見えない人が)どのように関わるとよいと述べているかを説明することが求められている。これは、課題文の後半部分をまとめるつもりで考えるとよいだろう。

まず、「見える人の世界と見えない人の世界の違い」について、「差異はあっても優劣はない」と筆者は言っている。問題1の「福祉的な態度」は、ある意味で、両者に優劣があることを前提にしていると言っていいだろう。そうではなく、あくまでも両者は、違いはあっても対等であることを筆者は強調している。その上で、「差異を面白がる関係」が必要だ、と述べている。つまり、「どちらかの世界に合わせようとするのではなく、また必要以上に差異を尊重するのでもなく、差異を相対化した上で、その違いそのものに興味・関心を向け合うような関わりを持つことで、対等で人間的な関係が築ける」というわけだ。

書き方としては、2部構成のB型を応用して、最後に筆者の言いたいことをまとめる形にするとよい

だろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>